

# 琉球大学学術リポジトリ

## 沖縄関係/日米協議委員会開催関係

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43726">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43726</a>

新南流表

外務省情報文化局  
昭和四十三年六月二十八日

沖繩に関する日米協議委員会第十四回  
会合の開催について

沖繩に関する日米協議委員会の第十四回国会合は、来る七月一日（月）午前十時より外務省において開催されることに決定した。

なお、本委員会会合には、日本側から三木外務大臣および田中総理府総務長官が、また米側からジョンソン駐日米国大使およびアンガーハウス等が出席する予定である。

大臣政務官宣

アメリカ局長

報道課長 北米課長

極秘

秋まで  
内号

(米大カニグアリ要旨)  
（五つ）海毛に内閣主張の意見の外部行進等内閣事務局に提出する。

報道課長は作成

沖縄に関する日米協議委員会第十四回

会合の開催について

昭和四十三年六月二十九日

沖縄に関する日米協議委員会第十四回会合

来年七月一日（月）午後十時より外務省において

開催されることが決定した。

又本委員会会合には、日本側から三木外務

大臣および田中總理官總務長官がまた仁米側

カラジョンソン駐日米大使よりアングル高等弁

(四)

税官が出席する所にてある。

秘  
発表 まで

沖縄に関する日米協議委員会第十四回会合の開催について（案）

昭和四十三年七月一日

一 沖縄に関する日米協議委員会第十四回会合は、七月一日午前十時から日本側三木外務大臣、田中総務長官、米国側ジョンソン駐日米国大使、アンガーハードル高等弁務官出席の下に外務省で開かれた。

二 今回の会合においては、まず沖縄と本土との一体化に関する問題について、次のとおり意見の交換が行なわれた。

アンガーハードル高等弁務官より、日米諮詢問委員会の本年三月一日発足以来の活動に関する報告を行ない、日米双方とも諮詢問委員会の活動が沖縄と本土との一体化の促進に大きく貢献していることに満足の意を表明した。

続いて、田中総務長官より、日本政府の一体化に関する考え方を説明し、今後日米琉三政府の緊密な協力の下に、総合的、かつ

組織的に具体的な一体化施策を講じて行く必要があることを強調した。

ジョンソン大使は、これを歓迎するとともに、米側としても今後一体化の進展に伴い生ずべき諸問題につき、弾力的な態度で協力する旨述べた。

さらにジョンソン大使は、今後の一体化の具体的計画における日本政府援助の重要性を強調し、今秋できるだけ早い時期に、日本側の来年度援助の具体的な考え方を示されることが望ましいと述べた。これに関連して同大使は、保健及び社会福祉の面での一体化に重点をおいてほしい旨要望し、日本側よりそれらの点を含めて今後十分検討して行きたいと述べた。

国政参加問題について、三木外務大臣及び田中総務長官より、この段階においてなんらかの形での沖縄住民の国政参加が望ましいので、日本側としても、法律上の問題等国内的な問題の解決につき検討し

て い る旨述べ、米国政府においても、その早期実現につき、好意的配慮をしてほしいと要請した。それに対しジョンソン大使は、国政参加問題は米国政府にとつても多くの困難な問題を含んでおり、この場で日本側の要請に対する明確な回答をすることはできないが、米国政府としては、日本側の検討の結果を逐次通報してほしい旨答えた。